

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番	福山市立駅家南中学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月15日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>○登下校時に、児童・生徒が気持ちよい挨拶をする姿が見られるようになっている。</p> <p>○各校で課題を明確にして取り組んでいる。授業や行事を通して、児童・生徒が一生懸命学びを深めていると感じる。</p> <p>○学校・保護者・地域が互いに連携・協力を深め、児童・生徒を育てていくことが重要である。</p> <p>○各校で、今後も、目標をもって思い切って取り組んでいってほしい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○基礎学力の定着に向けての取組の結果、「できた」「わかった」と実感できる児童・生徒が増えている。引き続き基礎学力定着に向けて取り組む。</p> <p>○中学校区で、家庭学習の習慣・スマホ・メディアとの適切なかわり方について取り組んでいる。まだ十分な成果が出ていないので、家庭との連携を深め、取組を継続する。</p> <p>○行事やボランティア活動を通して、「全力で頑張ったやり切った」と感じることができた児童・生徒が増えており、自己有用感・自己肯定感が高まっている。</p>	<p>育成する資質・能力</p> <p>思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信</p>	<p>めざすこども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒</p>	<p>中学校区として統一した取組等</p> <p>○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを進めるとともに、学力の定着・向上を図る。</p> <p>○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。</p> <p>○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。</p>
---	---	---	---	--

III 自校

学校教育目標
自立して 社会に貢献できる 生徒の育成

現状							
○生徒アンケート(肯定的解答率 単位%)							
授業はよくわかる	89	学校へ行くのは楽しい	84				
授業で考えることは面白いです	81	授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている	88				
○令和7年度全国学力・学習状況調査結果 ()は市平均 単位%							
国語	23(R5)	24(R6)	25(R7)	数学	23(R5)	24(R6)	25(R7)
	64(66)	52(55)	56(52)		39(45)	48(48)	49(45)
○令和7年度 不登校生徒数(人)							
不登校	23(R5)	24(R6)	25(R7)	新規	23(R5)	24(R6)	25(R7)
	49	40	31		25	11	10
○教職員アンケート(令和7年度)							
仕事にやりがいを感じている 52.4%(市57.4%)							

育成する資質・能力	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信	
めざす子ども像	低学年	意図をもって、選んだり行動したりすることができる。	自分と友達のよさに気づき、考えを伝え合うことができる。	わかったこと、できたこと、できるようになったことなど、自分自身を振り返ることができる。
	中学年	よりよい考えや解決のために、意図をもって選択したり選択し直したりすることができる。	自分と友達の相違点に気づき、認め合いながら、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	自分のよさや身に付いた力、課題などに気づき、生活に生かしたり改善したりすることができる。
	高学年	自己決定と自己調整を繰り返しながら、よりよい解決や生き方を見付け、生活に生かすことができる。	多様な他者の考えや個性を受け入れ、自分の考えを論理的に伝えることができる。	自分や他者のよさを認め合い、「なりたい自分」に向けて、客観的に考えて取り組むことができる。
研究	テーマ	自ら学び、高め合う生徒の育成を目指して ～対話と協働のある学びを通して～		
	内容等	①しっかり身に付け(基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る) ②課題意識をもち(授業者も生徒もなぜ学ぶのかを明確にする) ③結論をアウトプット(考えをまとめ、その意図が伝わるように表現する)		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動やリーダーを中心とした自治的活動に主体的に参加している。 目を輝かせて、楽しそうに、教科の内容について考え、発言している。 他者との対話を通して、自分の考えを見直し、新たなことに気付いたりしている。 課題を解決するために、既習事項を関連付けて、考えたり、話し合ったりしている。 自分の考えを、言葉や数、図、思考ツール等を用いて、筋道を立てて説明している。 			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	生徒が主体的に学ぶ授業の創造と学力向上	*	継続	生徒が授業の中で「教科の面白さ」と「できる実感」を感じ、自信と意欲を育む。	・生徒のつまづきを理解し教科の面白さや魅力を引き出す教材研究を深める。 ・学びの過程で「わかる」「できた」という体験を重ねる。	生徒アンケート「授業はよくわかる」の肯定的評価を前年度以上にする。 (前年度：89%)	研究部 教務部 生徒指導部								
2	生徒が「学校へ行くのが楽しい」と感じることができる学校の創造		継続	生徒が自ら課題を発見し、仲間と協力して解決しながら、自己指導力を育む。	学校行事・部活動等はリーダーを中心とした話し合いや対話をもとにものにしていく。 校内フリースクールを充実させ新規不登校生徒を減らす。	生徒アンケート「学校へ行くのは楽しい」の肯定的評価を前年度以上にする。 (前年度：84%) 新規不登校生徒を減らす。 (前年度：10人)	教務部 系以降安全部								
3	元気・笑顔で勤務する教職員の育成を通じた学校組織力の向上		継続	教職員が主体性を発揮し、学年や分掌において、新たなことに挑戦きる学校づくりを推進する。	各部会、学年会の活性化を図り、すべての子どもたちの「自立」を促すための取り組みを積極的に仕組む。	100NEN 教育アンケート「仕事にやりがいを感じている」の“あてはまる”を前年度以上にする。 (前年度：52.4%)	教頭								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 ²

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。